

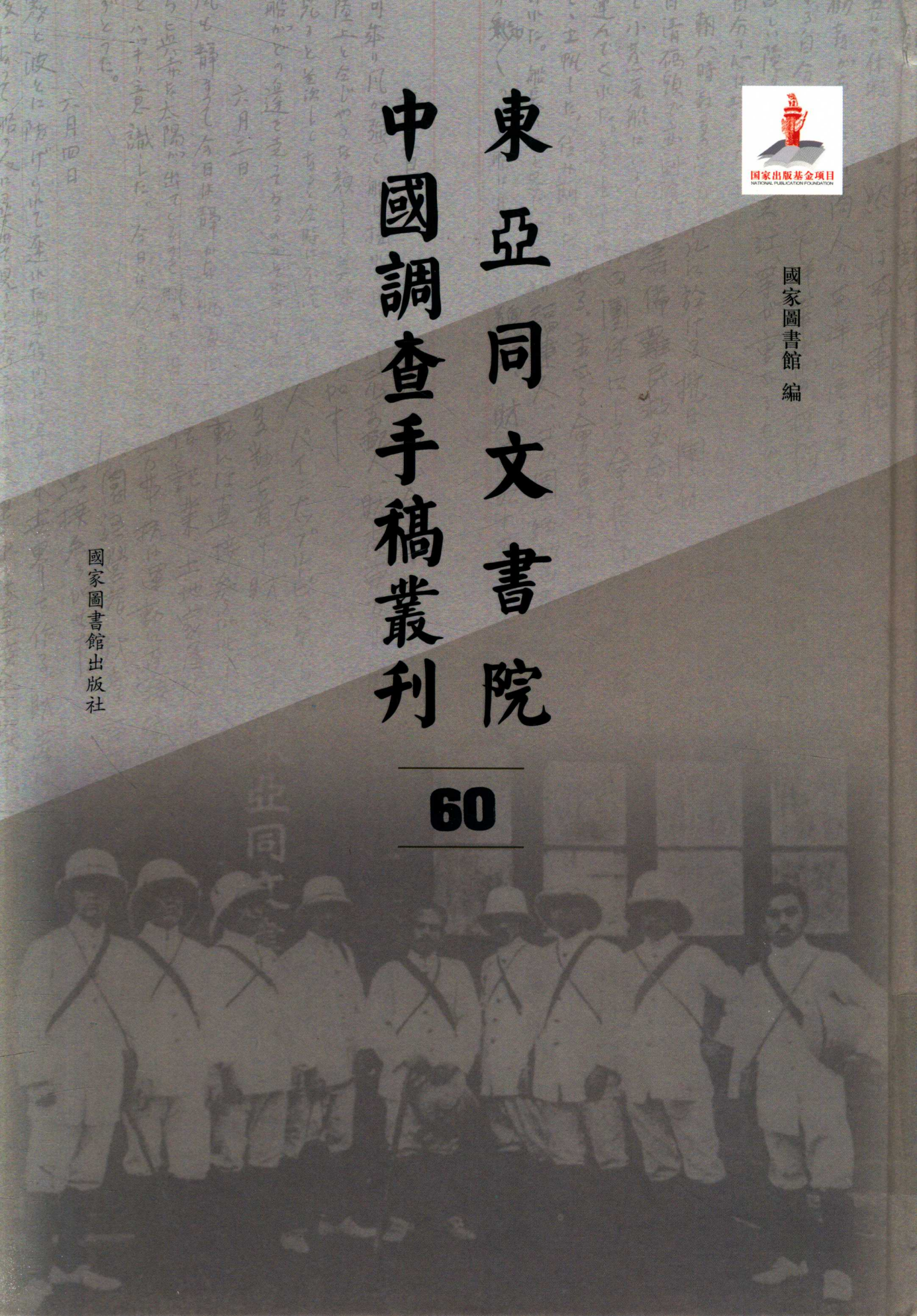


國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

60

國家圖書館出版社





國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

60

國家圖書館出版社

第六〇冊目錄

昭和十五年（一九四〇）旅行日誌（第三十七期生）

加藤咨郎	綏遠班		一
江藤茂樹	綏遠班		四七
吉田善次	綏遠班		七五
八木了彦	綏遠班		一二五
立花正平	浙江班		一六五
加藤大助	浙江班		一九五
石崎三郎	浙江班		二一九
今村俊一	浙江班		二四七
宮木得行	浙江班		二七九
山崎秀一	福建班		二九九
小竹忠夫	福建班		三一五

藤原龍男	福建班	三三七
小久保郁郎	福建班	三四七
尋木慎一郎	長江流域第一班	三六一
松浦春男	長江流域第一班	三八五
平田剛	長江流域第二班	四一五
井原雄治	長江流域第二班	四四七
森口薰	長江流域第二班	四六五
井上道高	長江流域第二班	四九九
齋藤信幸	長江流域第二班	五四五
西山泰元	長江流域第三班	五六九
吉村健次	長江流域第三班	五八七
吉本正男	長江流域第三班	六一九
前田知德	長江流域第三班	六五一

昭和十五年度

大旅行日誌

綏遠省調查班

加藤 啓郎

大旅行日誌											
六月一日											
午前七時四十分金学の嵐吹けくに送られ											
て勇躍汽車で校門を出發											
十時三十分上海驛發の天馬特											
別快車の初運轉に乗込む。處女列車は常州附近で約五分											
同五往生ず。午後三時四十分南京駅着。中山東路なる知人											
を洋車で訪問極くスムーズに大旅行一日を送る。											
六月二日 午前八時起床 兵頸部隊の中学時代の朋友											
る訪ね懐旧談を交はす。午後三時頃から南京見物にドライブ											
す。天又台への途中牛のドライブウエイの快通、玄武湖の鏡の											
如き落着き揚子江の銀の帯が折からの夕日に映えてあざ											

衣	之	へ	は	く	と	車	之	う	や
の	月	て	す	十	見	は	月	水	か
通	四	一	上	五	ゆ	僅	三	る	な
の	日	洞	海	時	る	か	日		白
形		を	へ	浦	追	り			銀
跡	午	決	の	に	一	差	午		の
と	時	心	高	發	行	あ	前		地
の	三	す	甲	蚌	に	て	九		平
す	時		の	蟬	追	衆	時		線
憲	徐		歸	着	付	水	未		を
兵	州		り	の	く	こ	發		限
隊	着		の	堤	焦	の	十		る
は	一		縣	舍	慮	後	時		夕
縣	鹿		人	利	の	七	半		富
と	駝		は	車	教	日	浦		迫
訪	へ		分	ま	を	を	口		る
ぬ	下		ひ	ど	す	ご	發		景
る	り		氏	四	し	した	の		觀
	て		の	時			約		の
	先		や	間			束		怪
	行		親	全			の		く
	の		切	り			國		印
	三		甘	待			際		象
				ち			到		づ
				合					け

東亞同文書院學生調查大旅行指導室

東亞同文書院學生調查大旅行指導室

天	月	九	日	干	前	九	时	二	十	分	正	京	站	發
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

文月十一日
曇り
午前七時起床
午前九時富士屋木

テルを大境門外の平山公園を昇収するス4ヤンの上に着

き
と
共
に
氏
の
兄
か
ら
出
る
も
の
は
書
秘
が
こ
も
つ
て
ぬ
た。

十二
二
十分
公
館
を
辞
し
た
が
こ
ゝ
で
調
査
に
関
し
て
新
し
い

3月を知ることになった。
 八木に藤西足と察南政廳に先輩

伊藤氏を訪問。二時半まで家彊子情を承つたが、後かう

東亞同文書院學生調查大旅行指導室

文月十四日。	午前七時四十分大同發午後三時十二分原	の大名旅行が大同あたりかうだんく訂正されて来る。	午後五時五分大同行に乗り込み十時二十分大同着今まで	文月十三日。	午前八時二十分發の汽車に乗りおくれ	にしな。張家白の四日は全く無駄の様だつた。	大同へ先に發つ。吉田兄の不舒服のため自分が残ること	資料をいたく。午後五時五分發の汽車で八木江藤氏兄	文月十二日	蒙疆自治政府に先輩高宮氏を訪問種々の	輩菅原氏を尋ね回教徒の世話を受ける。	回會人にあつて悲願をした始末である。後自治政府より先
--------	--------------------	--------------------------	---------------------------	--------	-------------------	-----------------------	---------------------------	--------------------------	-------	--------------------	--------------------	----------------------------

と あ す こ の 新 旧 兩 城 を 結 ぶ 道 路 は 以 前 傳 作 義 の 築 造 也	肥 前 の 訓 辭 あ り。 午 後 松 城 か ら バ ス で 旧 城 の 領 事 館 に 赴 く	之 月 十 五 日 午 前 十 一 時 か ら 盟 長 及 バ 沢 井 參 事 官 の 支	身 住 宅 へ 我 々 の 宿 舎 を 定 め て 貰 ふ	巴 彦 塔 拉 盟 公 署 に て 沢 井 鉄 馬 氏 と 面 晤 す 雜 談 收 署 員 の 独	走 り 出 す 所 を 見 て 氏 の 輪 廓 を 想 像 す る こ と が あ ら な い	す じ つ た。 拉 車 的 が こ ゝ の 澤 井 公 館 を よ く 知 つ て ゐ て 急 に	澤 車 を 拾 は う と し ん が す い 拉 車 的 が 應 じ な く て 非 常 な に	て 車 窓 に 唇 開 し て 來 る。 午 後 三 時 二 十 分 厚 和 着 駅 前 で、	和 着 中 又 也 又 の 景 色 は こ ゝ ま で し と 亦 別 の 趣 き を 見 へ
--	--	---	---	---	--	--	---	---	--

るもので主なる舗装道路なり。	エ月十六日	午前八時起床	十時すぎ澤井公館を訪問	とこび三十三期の先輩永福氏に偶然會ふ。氏の紹介で	権運清查所の近藤良寛先輩を訪ね種々蒙る情に傾聴す。	吉日兄一人後れて來厚せり。	エ月十七日	午前八時起床	午前中盟公署で種々の話を	永り後沢井氏より館の須田氏にあつた紹介状をいた	いいて千石金氏と公館に訪ねる。	此後ある日西兄弟来りて	共に回教徒に因する話を聴き	且つ中馳走に及ぶ。	エ月十八日	一日登壇を見合せてユウリノート巻
----------------	-------	--------	-------------	--------------------------	---------------------------	---------------	-------	--------	--------------	-------------------------	-----------------	-------------	---------------	-----------	-------	------------------

約 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二	諸 教 授 ラ コ ウ 研 究 家 新 野 氏 を 訪 ね 相 懐 禮 意 に あ ひ 再 会 を	之 月 二 十 日 須 田 氏 の 紹 介 で 石 本 願 寺 と 在 世 帝 大 西 藏	之 月 十 九 日 中 果 氏 の 宅 を 出 て 須 田 公 館 に 移 る	昨 日 更 に 依 つ て 腕 く 滑 へ 去 つ た と 知 る	あ つ た。 新 南 び 花 の 巴 里 が 遂 に ド イ ツ の 入 城 と い ふ ア 史	つ た こ の 土 地 で 今 晩 の 菜 飯 と 刺 身 が 出 た の は 驚 異 で	つ た。 飯 の み 獨 身 住 宅 に と と る。 北 京 か ら 百 取 十 里 奥 へ 入	部 屋 わ け か り て ぬ る。 独 身 住 宅 は 二 三 日 で 引 き 拂 つ て し り	理 に 費 す。 張 家 昌 と 知 合 つ た 中 果 氏 の 社 宅 に 移 り 新 南 後
---	---	---	--	---	---	---	--	--	---

島	工	ま	徳	通	定			も	
の	那	出	回	行	し	之	之	調	新
中	民	来	氏	き	ん	月	月	員	城
央	家	ゝ	に	決	模	ニ	ニ	不	な
に	か	あ	役	定	様	十	十	化	る
向	う	て	っ	せ	じ	二	一	で	特
つ	語	氏	て	り	あ	日	日	帰	務
て	に	の	又	と	る			宅	機
集	入	自	自	話	盟	兼	資		関
ふ	れ	給	宮	し	公	ね	料		へ
	ん	自	の	あ	署	て	の		入
	ヒ	足	農	り	長	計	整		家
	バ	生	園	在	務	画	理		許
	リ	活	に	躍	課	中			あ
	玉	の	行	の	長	の			訪
	得	片		思	瀧	百			受
	意	鱗	種	ひ	川	霊			飲
	さ	か	々	な	氏	入			の
	う	何	の	り	よ	り			た
	に	へ	衆		り	の			め
	肩	た	衆	帰	昭	日			赴
	に		衆	館	白	程			く
	の	附	案	後	の	か			こ
	せ	近	加	夕	百	決			こ
	て	の	三	方	霊				で
と		の	派						